

「-っぼい」の考察：「-っぼさ」と -ishness の関係について*

高橋 勝 忠

1. はじめに

岩崎（2011：83）によると、「息子に彼女ができたっぼい」や「どうやら明日は雨っぼい」のような、ある状況を踏まえて話者の判断を表す用法は、昭和の終わり頃に成立すると言う。これらの用法を新用法と呼び、一方「彼は相当忘れっぼい」や「この酒は水っぼい」のような、辞書に載せられている用法を小出（2005：1）に従い旧用法と呼ぶ。

従来、「-っぼい」の意味について通時的に分析したものとして岩崎（2011）があり、共時的に分析したものとして山下（1995）、小松・木村（1997）、尾谷（2000）、梅原（2002）、小島（2003）、ケキゼ（2003）、田村（2004）、小出（2005）、梅津（2009）、小原（2010）、竹島（2010）がある。その殆どがインターネットや新聞や小説などのコーパスを利用し、「-っぼい」の旧用法と新用法の意味の違いを比較している。¹ 本稿では、これまで議論がなされてこなかった「-っぼさ」の派生名詞形に注目する。そして、高橋（2009：171）の「名詞範疇条件（NCC）の含意」と「形容詞範疇条件（ACC）の含意」に基づいて、語彙化という観点から -ishness の派生語の内部構造を検討し、「-っぼさ」の派生語との関係を考察していく。先ず2節では、辞書上の「-っぼさ」の記述が統一的でないという問題を指摘する。3節では、2節の問題を考慮するために「-っぼい」について、意味と形態、並びに -ish 派生語を比較しながら、「-っぼさ」の派生語の成立条件を検討する。4節はまとめである。

2. 「-っぽさ」の辞書記載の比較

「-っぽい」はインターネット上では溢れるばかりに見つけることができる。小原（2010：65, 73, 74）の「Yahoo! 知恵袋」の例をいくつか引用してみよう。

- (1) 母の妹は50後半ですが、最近それっぽい行動をとっています。
- (2) プレステ2が壊れたっぽいです。今まで、しなかったのに、
- (3) 最近の曲ではなく、結構前からあるっぽいです。手掛かりが少なくて
- (4) 札幌の気温は大阪の冬っぽいけど、もう春物を着てるのでしょうか？
- (5) その他もちろんできるよ。郵送住所確認が面倒っぽいけど…

(1) は代名詞に、(2) は過去形に、(3) は動詞の終止形に、(4) は名詞句に、(5) は文に「-っぽい」が付加した例である。小原（2010：59）は旧用法と新用法の違いは「語彙レベル」と「句レベル」の違いとして捉えられることができると主張する。小原（2010：65）は影山（1999）の分析に従い、「語の内部には助詞、時制接尾辞、複数語尾、助動詞などの機能範疇が現れない」形態的緊密性の原理に従うことを認め、新用法の「-っぽい」には(1)～(5)を始め、この原理に従わない(6)～(8)のような例があることを指摘する。²

- (6) リンキンパークに至っては最初からムリがあるっぽいです。…。自分で特定のパートだけ抜き取る
- (7) 正しい生き方をすることを心がけている人たちっぽいなあって思いました。
- (8) でも同時に、ジョフ爺が頼みごとがあるらしいっぽいことも言っていたので、

本稿でも、小原（2010）の捉え方は正しいものと仮定し、「-っぽい」の旧用法と新用法の違いは、旧用法では形態的緊密性の原理を守り、一方、新用法では句や文に見られる統語的な要素（機能範疇）が語の内部に入る表現が可能になることから、形態的緊密性の原理に違反する諸例が生じてくると仮

定する。田村（2004：43）や梅津（2009：55）などで指摘するように新用法の傾向として「-（っ）ばい」が接辞から助動詞としての機能に変化しているという見方はまさに語彙範疇³（語彙レベル）から機能範疇（句・文レベル）への変化として捉えられる。当然、意味の変化が範疇の変化に伴い生じてくるが、3節で詳しく述べることにして、旧用法（辞書上）の「-っばい」の定義を、『明鏡国語辞典』（2008）に従い（9）でまとめてみる。

（9）「-っばい」は様々な語に付いて形容詞を作る接尾辞

《名詞に付いて》ア・～そのものではないが、それに近い性質があるさま。「子供—ことをするな」「この酒は水—」「黒—シャツ」イ・～の印象が強く感じられるさま。「ほこり—部屋」「俗—趣味」「色—理屈—」

《動詞の連用形に付いて》～する傾向があるさま。・しがちだ。「飽き—人」「惚れ—ばい」「最近忘れ—・くなった」

《形容詞・形容動詞の語幹に付いて》～の性質がありありと感じられるさま。「荒—言動」「安—時計」「哀れ—声を出す」

〔語法〕 近年、「出かけるっばい」「行くっばい」など、動詞の終止形に下接する例が見える。意味は様態の「らしい」に近い。

本稿では、「-っぼさ」という派生名詞形が辞書に記載されているかどうかを調査し、4つの辞書（i.e. 『大辞泉』（1998）、『明鏡国語辞典』（2008）、『日本国語大辞典』（2006）、『広辞苑 第6版』（2008））を比較検討する。『明鏡国語辞典』（2008）は新用法について言及している唯一の辞書であった。これら4つの辞書において「-っぼさ」の派生語が成立するかどうかを比較すると次の(10)のような結果が得られた。⁴一言でいうと、記述に統一性が見られないということになる。その原因については後程、議論する。

(10)

「～っぽい」 基体の品詞	大辞泉	明鏡国語辞典	日本国語 大辞典	広辞苑
名詞 色っぽい	—さ	—さ	*—さ	*—さ
名詞 大人っぽい	—さ	*大人っぽい	*—さ	*—さ
名詞 愚痴っぽい	*—さ	*愚痴っぽい	*—さ	*—さ
名詞 子供っぽい	—さ	—さ	—さ	*—さ
名詞 俗っぽい	—さ	—さ	—さ	*—さ
名詞 熱っぽい	—さ	—さ	—さ	*—さ
名詞 埃っぽい	—さ	*埃っぽい	—さ	*—さ
名詞 骨っぽい	—さ	—さ	*—さ	*—さ
名詞 水っぽい	—さ	—さ	*—さ	*—さ
形容詞 青っぽい	—さ	—さ	*—さ	*青っぽい
形容詞 荒っぽい	—さ	—さ	*—さ	*—さ
形容詞 黒っぽい	*—さ	—さ	—さ	*—さ
形容詞 白っぽい	—さ	—さ	*—さ	*—さ
形容詞 安っぽい	—さ	—さ	—さ	*—さ
形容動詞 哀れっぽい	—さ	*—さ	—さ	*—さ
形容動詞 気障っぽい	*—さ	*気障っぽい	—さ	*—さ
動詞 飽きっぽい	—さ	—さ	*—さ	*—さ
動詞 忘れっぽい	—さ	*—さ	*—さ	*—さ

3. 「-っぽい」について考察すべき事柄

「-っぽい」について考察すべき事柄は意味的観点からと形態的観点からである。前者は旧用法と新用法ではどのような意味の違いが「-っぽい」表現に見られるかについて、後者はそれぞれの用法を接尾辞として捉えるべきか助動詞として捉えるべきか、またその基準をどのように示せばよいかである。これらについては3.1節と3.2節で述べる。

(9)で示したように「-っぽい」は形容詞接尾辞の働きを持つ。梅原(2002:415)は英語の接尾辞 -ish と日本語の接尾辞「-っぽい」との間には、ある程度の相関関係があることを認めている。3.3節では、「-っぽい」と -ish の派生語、「-っぽさ」と -ishness の派生語について、両者はどの点が似ているのか、またどの点が異なるのかについて議論する。特に、「-っぽい」

と -ish の下位範疇化素性と評価性（+評価、-評価、中立評価）の観点から両接尾辞の特徴について考察する。

3.1 「-っばい」の意味（旧用法と新用法の意味の違い）

「-っばい」の意味は、山下（1995）、尾谷（2000）、ケキゼ（2003）、小島（2003）等で論じられている。⁵ 本稿では意味的拡張の方向性や論理的に「-っばい」の意味を提示している尾谷（2000：169）の分類に従い、旧用法と新用法の意味の違いについて言及する。

尾谷は（11）のように「-っばい」の意味を分類する。

（11）

- 1) 物理的含有量の多さ（期待値よりも多く物質 X を含んでいる）
「水っばい」「埃っばい」「粉っばい」（e.g. 水っばいジュース、埃っばい部屋、粉っばいカレー）
- 2) 属性の含有量の多さ（期待値よりも多く X の属性を含んでいる）
「子供っばい」「白っばい」「安っばい」（e.g. 子供っばい太郎、白っばい車、安っばい服）
- 3) 判断可能性の含有量の多さ（X であると判断される可能性を多く含んでいる）
「探偵事務所っばい」「科学っばい」「終わってるばい」「最後っばい」「出来てるっばい」（e.g. 元々大学の友人達と作ったサークルが原型になっているため、その名前を踏襲しているのだ。ちょっと大正ロマンの頃の探偵事務所っばくてよいのではないか。「種」の研究が流行らない理由は簡単で「科学っばく」無いからだ。もう終わってるっばいですよ。もうこれで最後っばいですね。あ、もう出来てるっばいね。）
- 4) 頻度の解釈から傾向 / 属性の解釈（FREQUENCY IS TENDENCY）
「飽きっばい」「忘れっばい」「惚れっばい」「怒りっばい」（e.g. 「怒りっばい」は「いつもよく怒る」と「ちょっとしたことですぐに腹を立てる、また、そういう属性を持っている」の2通りの解釈が可能。）

尾谷は1)～4)の用法の内、3)が新用法であると仮定する。3)は1)のよ

うに物理的含有量としての物質Xを含んでいないが、1)から拡張した2)の含有量の多い属性用法からの、さらに拡張した例として捉えている。「XっぽいT」としたときに3)は「判断可能性の含有量」なのでT(ターゲット)がどのカテゴリーに属するか不明となり「ポイ」が用いられる際に推量用法として解釈されやすいことを尾谷は注で述べている。しかし、判断可能性は(12)に挙げるようなTが明確なカテゴリーでも「Xっぽい」自体が不明確な場合には「何となく～そのように思える(見える)(感じる)」という推量的な意味が生じてくる。

- (12) レストランで山田先生っぽい人を見た。(ケキゼ2003:33)
 ちょっと不安っぽい感じ。(ケキゼ2003:34)

ケキゼ(2003)は「ちょっと不安っぽい感じ」は「っぽい」+「感じ」を用いることによって、話者は断定を避け自分の主張をやわらげている「あいまい化用法」として捉えている。現代日本語の新用法は(12)のような推量的な意味合いで使われる例が殆どであると思われる。

尾谷(2000:170)は「水っぽいジュース」はYカテゴリーのモノがXカテゴリーに近づいてXとしての特徴が顕著に現れているからであり、そこからY性の不足ということになると論理づけている。「男らしい男」の場合は、TはXカテゴリーの成員なのでXのプロトタイプの意味が出てくるということになる。

- (13) 「XっぽいT」: [TはYカテゴリーの成員] + [X性の顕著さ] → Y性の不足 (e.g. 水っぽいジュース、子供っぽい大人)
 「XらしいT」: [TはXカテゴリーの成員] + [X性の顕著さ] → Xのプロトタイプ (e.g. 男らしい男、*子供らしい大人)

ここで、「らしい」のプロトタイプというのは「いかにも」「実に」「本当に」「一番」のような副詞と共起し、Xは通常は人が来るものと考え(cf. *水ら

しいジュース、*粉らしい味)⁶。「-っばい」は、本来は (13) のように、X と異なる T を持っていたが (e.g. 男っばい女)、「XらしいT」と同じ意味で (e.g. 男らしい男 = 男っばい男) も使われるようになってきた (cf. 小松・木村 1997: 49)。

尾谷が挙げる (11) における 4) の例は動詞の基体に付加する「ばい」で 1)、2) の名詞や形容詞の基体に付加する場合と範疇的に異なる。4) の諸例は行為 X の含有量の多さと捉え、物質的含有量の多さ 1) から意味的に拡張が行われたものと仮定する。「あの人は怒りっばい人」のように頻度も頻繁に生じると、その人の属性のように解釈される場合もあり、2) からの拡張の例として捉えることもできる。

尾谷の (11) の捉え方は 3) の新用法の補足的な説明を加えており「-っばい」の意味を全般的に概ね捉えられるものとする。

3.2 「-っばい」の形態 (接尾辞か助動詞か)

田村 (2004: 43) によると、「従来は、「ばい」が後接するのは、語ないし語幹とされていたが、それが述語形 (e.g. 使っている (っ) ばい) にまで及んでいるということは、「ばい」が単なる接辞にとどまらず、助動詞としての機能をもつようになってきたことを示唆するものではないだろうか」と捉え、これを「ばい」の新用法とみなしている (cf. 小島 (2003: 35-36)、梅津 (2009: 55)、尾谷・二枝 (2011: 269-272))。

小原 (2010: 63-65) によると、語から句 (文) への使用、語彙部門から統語部門での生成、形態的緊密性の違反が新用法には見られると捉え、以下の語彙レベルと句レベルの差を示す諸例を挙げている ((e.g. あれは [タスキの子供] っばい vs. 「子供っばい」。意味的には前者は「みたい」、後者は「らしい」のプロトタイプの意味を持つ。) (e.g. 兄は [大人っばい] が、弟は [子供っばい]。vs. *兄は [大人_]、弟は [子供っばい]。兄は [実の子供] っばいが、弟は [他人の子供] っばい。vs. 兄は [実の_]、弟は [他人の子供] っばい。)) (e.g. 今日の午前中は [雨が降る] っばいが、午後から [雪

が降る]っぽい。vs. 今日の午前中は [雨_]、午後から [雪が降る]っぽい。) (e.g. *? John is a [New Yorker] and plans to open a shop there. vs. 色々見ていたらはずれてるコード??っぽいのがありましたそれに当てはまる端子?が。*it-er vs. 母の妹は50後半ですが、最近それっぽい行動をとっています。姉妹でも、なる人。) (「*子供たち新聞」vs. でも下の子の面倒見るいい子達っぽい。*忘れたっぽい vs. プレステ2が壊れたっぽいです。Cf. 「子供新聞」「忘れたっぽい」)。

上記の議論をまとめると、旧用法（辞書上の用法）は接尾辞で、新用法は助動詞の機能を持つように変化していることが分かる。

3.3 「-っぽい」と -ish の比較を通しての類似点・相違点

1) 下位範疇化素性

梅原 (2002: 418) は辞書の見出し語の -ish と 「-っぽい」 の数を比較し、(14) のようなリストにまとめている。⁷ このリストは新用法の 「-っぽい」 の語を含んでいないので生産性については正確なものではないと彼自身認めているが、両接尾辞の下位範疇化素性の傾向を見るには都合がいい。

(14)

「-ish」の基体の品詞	名詞	形容詞	副詞	動詞	接続詞	不明	合計
語数	323	122	3	3	1	9	461
比率 (%)	70	26.4	0.7	0.7	0.2	2.0	100
「-っぽい」の基体の品詞	名詞	形容詞	副詞	動詞	接続詞	不明	合計
語数	15	12	0	6	0	0	33
比率 (%)	45.5	36.3	0	18.2	0	0	100

梅原 (2002: 419) は 「-ish の場合、動詞と結びつく例は、全体の0.7%で、極端に言えば動詞との結合は殆ど無いと言ってよい。これに対し 「-っぽい」 の場合、33例中6例と、動詞との結びつきが全体の20%近くを占めている」と述べており、この点が日英語の相違点であると捉えている。

小出（2005：1-2）は、「旧用法では、「ばい」に前接する語は名詞としての性質を備えているものに限られていた。「ばい」に前接する語は、品詞という観点から言えば名詞、動詞、形容動詞、形容詞であるが、それらが「ばい」につながる形はいずれも名詞としての性質を持つものだった。」と述べ、その根拠として動詞や形容動詞が格助詞を取ることや（例：「飽きが来る」「忘れがひどい」「哀れを感じる」「気障を武器にする）、形容詞は複合名詞の要素となることを指摘している（例：「円安が進行する」「荒業を使う」）。⁸

高橋（2009：142）では、-ish の下位範疇化素性は -ish:A, [+{N/A/V} _] (e.g. bookish (学者ぶった) youngish (どちらかというと若い) snappish (犬などが嘔みつく癖のある、怒りっばい)) と捉え、日本語の「-っばい」も「-っばい」：A, [+{N/A/V} _] (e.g. 「艶っばい」「粗っばい」「惚れっばい」) となり、英語の下位範疇化と同じように捉えることができるものと仮定する。新用法の「-っばい」も範疇的には同じ N/A/V の基体を取ると考える (e.g. 宇宙人っばい、いじめっ子っばい、ストーカー (っ) っばい、涼しっばい、細っばい、寝る (っ) っばい)。尾谷・二枝（2011：271）は、新用法としても、モダリティ用法のプロトタイプは「名詞+ポイ」が中心になると判断していることから、基本的には「-っばい」の基体は名詞であると考える。

(14) から言えることは旧用法としての -ish と「-っばい」は基本的に名詞・形容詞・動詞の下位範疇化素性を持つ点は類似しているが、生産性に関しては英語の -ish の方が「-っばい」の派生語より高い。その理由として、日本語の辞書に立項する「-っばい」表現は名詞・形容詞に付加する場合は慣用的に用いられる語彙化した表現のみを記載し、それに対して -ish の派生語は形容詞に付加する場合に、‘somewhat’のような基体の属性を緩める緩衝語的な派生語も載せられているのが原因であると考える (e.g. oldish, purplish. cf. *古っばい、*年寄りっばい、*紫 (色) っばい (ただし、新用法としては OK))。

2) 意味

梅原 (2001: 13) は (14) で検索した「リーダーズプラス」(研究社) の -ish の派生語の例について (15) のように、名詞に -ish が付加した場合の評価性についてまとめている。形容詞の基体の -ish の例は比喩的に拡張するような意味がないことから (15) の評価性の対象にはなっていない。

(15)

人間性に関する主観的評価の内訳

名詞323のうち、マイナス評価の対象となる単語数	270	(83.6%)
名詞323のうち、プラス評価の対象となる単語数	12	(3.7%)
名詞323のうち、中立評価の単語数	34	(10.5%)
名詞323のうち、判断が困難な単語数	7	(2.2%)

(15) の内訳からすぐに分かることは -ish はマイナス評価の対象になる派生語が多く含まれるという点である。梅原 (2001) (2002) の議論をまとめると次の3つの点から日英語の評価性の違いを捉えることができる。

(16)

- a. 評価性が日英で同じもの: 「子供っぽい」と childish (子供じみた、幼稚な)、「素人っぽい」と amateurish (素人じみた、へたな)
- b. 評価性が日英で異なるもの: 「事務員っぽい」と clerkish (事務員風の、重箱の隅をつつくような)、「俳優っぽい」と actorish (俳優の、芝居がかった、気取った)、「銀行員っぽい」と bankerish (銀行員のような、保守的な)、「案山子っぽい」と scarecrowish (案山子のような、見栄を張る)
- c. 英語にはあるが日本語にはないもの: bookish と「*本っぽい」、selfish と「*自己っぽい」、liverish と「*肝臓っぽい」vs. 日本語にはあるが英語にはないもの: 「埃っぽい」と *dustish、「大人っぽい」と *adultish

a. の旧用法の「-っぽい」は日英で同じ評価をもち、b. の新用法の「-っ

「っぽい」は英語の -ish の派生語に見られるような語彙化した意味（イタリックで示す）はなく、3.1節で見た(11)の3)の意味を持つと考えられる。

日英語の「-っぽい」と -ish の比較をしてみると、それらの接尾辞がマイナス評価をもたらすのではなく、基体の名詞の意味からイメージされる事柄が接尾辞と結びついてそのような意味をもたらすのである。したがって、日英語において文化の違いが捉え方の違いとなって意味の違いをもたらす。例えば、梅原(2001:15)は doll (人形)に対するイメージは日英で異なると指摘する。「可愛い女の子」というイメージは日英で共通だが、英語では「可愛いがあまり頭の良くない女の子」という意味があり、日本語では「操り人形」に代表されるように「人の意のままになる人物、主体性の無い人物」という意味で捉えられる。また、基体の名詞になる対象として英語では動物に関する -ish の派生語が多く見られるが、日本語では旧用法の「-っぽい」にその用法が見られないのは、梅原(2001:16)が指摘するように、農耕文化と狩猟・牧畜文化の違いといったことが関係するのかもしれない。

3) * -ishness と「*-っぽさ」の並行性（語彙化の観点から）

高橋(2009:175)高橋(2013:329)において、派生語の成立条件として、(17)の NCC (名詞範疇条件)と ACC (形容詞範疇条件)を提案した。さらに、派生語の生成過程として(18)の NCC の含意と ACC の含意を提案した。

(17)

NCC:最終節点にある名詞範疇 (N) は、動詞 (V)・形容詞 (A)・名詞 (N) のいずれかの範疇により、二重に c 統御されてはならない。

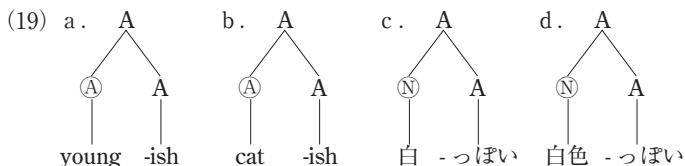
ACC:最終節点にある形容詞範疇 (A) は、動詞 (V)・形容詞 (A)・副詞 (Adv) のいずれかの範疇により、二重に c 統御されてはならない。

(18)

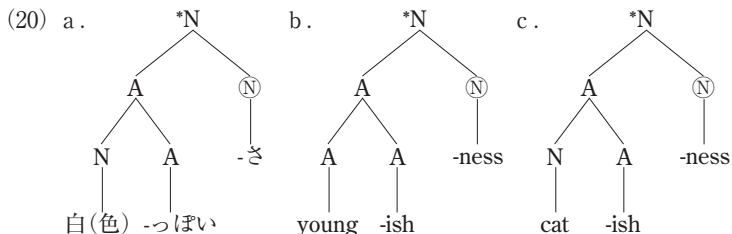
NCCの含意：派生語は、動詞 (V)・形容詞 (A)・名詞 (N) の範疇が最終節点の名詞範疇 (N) を c 統御しながら生成される。

ACCの含意：派生語は、動詞 (V)・形容詞 (A)・副詞 (Adv) の範疇が最終節点の形容詞 (A) を c 統御しながら生成される。

-ishness と「-っぽさ」の並行性を捉えるために最初に、*youngish, cattish*、「白っぽい」、「白色っぽい」の形容詞派生語について (18) の NCC の含意、ACC の含意に基づいて派生語を形成してみよう。

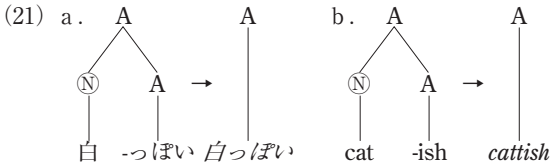


これらの形容詞派生語に「-さ」と -ness の接尾辞を付加すると、**youngishness, cattishness* (cf. **babylikeness*)、「白っぽさ」、「*白色っぽさ」と容認性に違いが生じてくる。形容詞派生語に「-さ」と -ness の接尾辞を付加してその理由を考えていく。

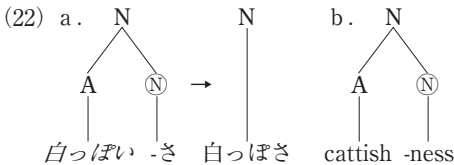


(20a, b, c) の内部構造はこのままではマルで囲んだ N を c 統御できない。したがって、(18) の NCC の含意を満たさないので (20a, b, c) のいずれの

派生語も生成できないことになる。高橋（2009：185）では語彙化の過程で内部構造が変換されることを提案した。「白っほい」は「素人くさい」の、*cattish* は「意地の悪い」の語彙化した意味があり、(21) の矢印の右側のように語彙的形容詞に変換されると仮定する。「白色っほい」や *youngish* は中立的な「白色がっている」や「やや若い」の中立的な意味しか持っていない。したがって、これらの派生語は内部構造を変換させないで (20a, b) の構造のままであると仮定する。



「-さ」と -ness の接尾辞を「白っほい」、*cattish* の形容詞派生語に付加すると次の (22) のような構造が得られる。⁹



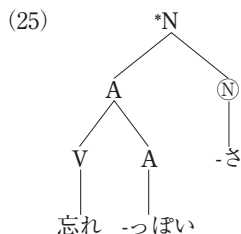
(10) における辞書上の「-っぼさ」の記述が一定でない問題も (18) の NCC の含意を使って説明が可能となる。その際に、(20a) の構造と (22a) の構造が NCC の含意を満たすかどうかを決定づけるので、(22a) のように内部構造を変換させる「-っほい」の語彙化の概念と語彙化を生じさせない (20a) の構造をもつ LIKE の概念を明確にさせ、どのような意味を持つときに「-っぼさ」が可能となるか、あるいは不可能となるかを (23) のような提案をもって説明してみよう。

- (23) 旧用法の「～し易い、～する傾向がある、～を言う傾向がある（～が多い）」の「合成的な意味」と、新用法の「～のようである、～みたい、～だと感じる（感じられる、感じさせる）」の推量・伝聞の助動詞の意味（まとめて LIKE の意味と呼ぶ）を持つ場合は、語彙化が生じていないと仮定し、「Xっばい」から「*Xっぼさ」を派生させることができない。一方、旧用法の「Xっばい」で「X」そのものではなく、Xから拡張した「非合成的な意味」を持つ場合は、語彙化が生じていると仮定し、「Xっばい」から「Xっぼさ」を派生させることができる。

(24a) の諸例は LIKE の例で、語彙化が生じないので (20a, b) の構造や、(25) の構造を仮定し、その結果 (18) の NCC の含意を満たせず「*-っぼさ」の派生語が阻止される。一方、(24b) の諸例は語彙化（イタリックで示す）が生じており、(22a) の構造を仮定し、結果として (18) の NCC の含意を満たし、正しく派生される。

- (24) a. *忘れっぼさ、*怒りっぼさ、*飽きっぼさ、*理屈っぼさ、*愚痴っぼさ。/*雨っぼさ、*素人っぼさ、*大人っぼさ、*嘘っぼさ、*無理っぼさ、*真面目(っ)ぼさ、*それっぼさ、*サボるっぼさ、*田舎っぼさ、*中間管理職っぼさ)

- b. 色っぼさ「色気がある」、子供っぼさ「幼稚である」、俗っぼさ「品位に欠ける」、水っぼさ「打ち解けずよそよそしい」、熱っぼさ「情熱的である」、白っぼさ「素人臭い」、黒っぼさ「玄人くさい」、青っぼさ「未熟である」、安っぼさ「品格がない」



4. おわりに

本稿では(10)の「-っぼさ」の辞書記載の問題をどのように考えたらよいかについて、英語の -ishness 派生語の内省の捉え方と大いに関係があることを主張した。(23)のような語彙化の基準を基に、旧用法の「-っばい」の派生語が「-っぼさ」の派生語を取れるかどうかを示した。『日本国語大辞典』の編者である松井栄一氏は松井(1983:147)で、「さ」と「ばい」の付く語を辞典の中に取り入れる際に、内省に合わないものをどのように処理したらよいかで編集の際に迷ったそうである。(10)の4つの国語辞典に見られる「-っぼさ」の内省の違いも、編集の取決め方で異なる判断を行ったものと思われる。「-っばい」の派生語は新用法では助動詞となり、接尾辞から文法的な機能語へと変化し、意味的にも LIKE のような句の解釈になり、結果として形態的緊密性に違反するような表現が多く見られるようになった(3.2節を参照)。しかし、旧用法の中でも、(24a)に見られるように動詞や形容詞や形容動詞の基体には「*-っぼさ」の派生語が生じない傾向があるということは(e.g. *忘れっぼさ、*荒っぼさ、*気障っぼさ)、これらの「-っばい」は機能語としての働きが以前からあったと捉えるのが妥当な解釈であるかもしれない。したがって、辞書記載の際には文筆家が使用しているので辞書の見出し語として載せるよりも形態的緊密性を満たしているかどうか、「-っばい」の場合は「-さ」の接尾辞を取れるかどうかということが辞書の立項を決める重要な要因になるものと思われる。

注

*本稿は平成26年9月28日に、関西レキシコンプロジェクト(於:神戸大学)の席上で口頭発表した内容を発展させたものである。発表の際にKLPのメンバーから質問を頂いた。ここに記して感謝する。

1. ただし、梅原(2002)は「-っばい」を英語の -ish と比較して、「-っばい」の意味を捉えている。
2. (1)~(8)の「-っばい」の語は句レベル(文レベル)の用例を示し、下線部は語レベルの派生語には見られない機能範疇を示す。
3. 影山(1995:13)や影山(1999:11)に従って、語彙範疇(lexical category)は名詞、

- 動詞、形容詞（および形容動詞）、あるいは副詞を基に作られ、複雑な語は語彙範疇および接辞で構成され、文は語彙範疇に機能範疇を加えて構成されると考える。また、Aronoff (1976) に従い、本稿では接辞を加えた語彙範疇を大語彙範疇 (major lexical category) として捉える。
4. (10) において、「*ーさ」は「-っぼさ」という派生語を載せていないことを示す。中には「*-っぼい」自体を載せていない辞書もあった。
 5. ケキゼ (2003) は尾谷 (2000) を発展させたものであり、小島 (2003) は森田 (1989) を発展させたものである。
 6. 竹島 (2010:35) は「車っぼい音」は「本来あるべき性質・形状を発揮する「ぼい」であると分析し、「YはXっぼい」(e.g. 彼は男っぼい) は男性の本来あるべき性質・形状を表し、「男っぼい男」のように「Y=X」となり一般的にはプラスイメージを帯びると仮定する。しかし、車の場合は「?車っぼい車」や「*車らしさ」とは言えないので、「車っぼい音」は「車が出すような音」「車のような音」の解釈が妥当で、「車っぼい音 出して走って」のイメージは「車の音を出さない車に対して」マイナス的に使われていると考える。
 7. 梅原 (2001:4) と梅原 (2002:417) によると、出版年は明記していないが、(14)の -ish の基体の品詞数は「リーダーズプラス」(研究社) の電子辞書からの検索であり、「-っぼい」の基体の品詞数は「スーパー大辞林」(三省堂) からの検索である。
 8. 「忘れがひどい」「気障を武器にする」の例は筆者が追加したものである。
 9. 高橋 (2013:331) では「白っぼさ」を「素人臭さ」の意味で捉える人は現代ではあまりいないので、「白っぼい」という派生語の頻度の高さから頻度に基づく語彙化が生じ、内部構造が (20a) から (21a) を經由して (22a) のように変換されると仮定し、「白っぼさ」という派生語が生成されると考えた。頻度に基づく語彙化の捉え方については高橋 (2009) (2013) を参照のこと。

参考文献

- Aronoff (1976) *Word Formation in Generative Grammar*. Cambridge, MIT.
- 岩崎真梨子 (2011) 「「-っぼい」の意味用法と展開」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』31, 83-96.
- 梅津聖子 (2009) 「現代日本語にみる接尾辞「ぼい」の広がり」『拓殖大学日本語紀要』19, 55-64.
- 梅原敏弘 (2001) 「接尾辞 -ish の機能と生産性について—一日英語比較の視点から—」『英文学』30, 1-20. 駒澤短期大学英文科.
- 梅原敏弘 (2002) 「日本語接尾辞「-っぼい」と英語接尾辞「-ish」の類似と相違について」『駒澤短期大学紀要』30, 415-431.
- 尾谷昌則 (2000) 「接尾辞「ぼい」に潜むカテゴリー化のメカニズム—「女っぼい人」は女ですか?—」『日本言語学会120回大会予稿集』日本言語学会, 168-173.
- 尾谷昌則・二枝美津子 (2011) 『構文ネットワークと文法』(講座 認知言語学のフロンティア2 山梨正明編) 研究社.
- 小原真子 (2010) 「接尾辞「-っぼい」について」『島根大学法文学部紀要言語文化学科学編』

- 29, 59-76.
- 影山太郎 (1995) 「文と単語」『日本語学』14, 12-20.
- 影山太郎 (1999) 『形態論と意味』くろしお出版.
- ケキゼ、タチアナ (2003) 「「ばい」の意味分析」『日本語教育』118, 27-36.
- 小出慶一 (2005) 「接辞「～ばい」の用法の広がり—「雪が降るっばい」という表現はどのように成立したか—」『群馬県立女子大学紀要』26, 1-13.
- 小島聡子 (2003) 「接尾語「ばい」の変化」『明海日本語』8, 31-38.
- 小松裕子・木村秀次 (1997) 「接尾辞「ばい」小考」『明海日本語』3, 41-51.
- 高橋勝忠 (2009) 『派生形態論』英宝社.
- 高橋勝忠 (2013) 「語の語彙化と頻度に基づく一語化の違い」『言語学からの眺望2013』(福岡言語学会編) 322-335. 九州大学出版会.
- 竹島奈歩 (2010) 「接尾辞「ばい」と共起する名詞について—新聞記事の見出しを例に—」『同志社大学日本語・日本文化研究』8, 20-37.
- 田村泰男 (2004) 「接尾辞「ばい」が結び付く語句について」『広島大学留学生教育』8, 37-44.
- 松井栄一 (1983) 『国語辞典にない言葉』南雲堂.
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』角川書店.
- 山下喜代 (1995) 「形容詞接尾辞「-ばい・-らしい・-くさい」について」『講座日本語教育』30, 183-206.
- Walinska de Hackbeil, H. (1983) "X Categories in Morphology." *Papers from the Parasession on the Interplay of Phonology, Morphology, and Syntax*, CLS.

辞書

- 『広辞苑 第6版』(2008) 岩波書店.
- 『大辞泉』(1998) 小学館.
- 『日本国語大辞典』(2006) 小学館.
- 『明鏡国語辞典』(2008) 大修館.